

家族のもとへ帰りなさい

マルコの福音書 5章 1-20節

はじめに

私たちの人生には悩みは尽きないものですが、特に家族の問題は私たちの心を大きく悩ますものです。家族の病気や死、夫婦関係の問題、子どもを巡る問題などは、私たちにとって最も身近な存在であるがゆえに、私たちの心に重くのしかかってきます。

今日は、イエス様に会ったひとりの人が人生を変えられたという出来事を見ていきますが、この出来事を家族の回復という視点から見ていきたいと思います。

1. 誰の手に負えなかった人

イエス様はある時、舟でガリラヤ湖という湖を渡って、「**ゲラサ人の地**」にやって来ました。そこでイエス様は、ひとりの男と出会うのです。

彼は、「**レギオン**」という名の「**悪霊につかれています**」人でした。「レギオン」というのは、「大勢」という意味ですから、この男は多くの悪霊につかれていたのです。

彼は「**墓場**」に住みついて、一日中「**叫び続け**」、「**石で自分のからだを傷つけていた**」のです。人々は彼を何とか押さえようと、「**足かせや鎖**」でつなぎましたが、彼はそれを「**引きちぎり**」、「**砕いてしまった**」のです。もはや彼は、誰の手にも負えない存在だったのです。

彼には「**家**」があり、「**家族**」がいました。しかし彼は、家に住むことも、家族と暮らすこともしなかったのです。彼の家族は、どのような思いだったのでしょうか？自分の夫や父親、あるいは息子がこのような状態だったら、家族は大きな苦しみを抱えていたでしょう。自分の夫や父親、あるいは息子が社会から孤立している、社会の中で生きていけない、心の中で抱えている苦しみや悲しみを一日中叫び続けている、自分を傷つける自傷行為を続けている、人々からは迷惑がられ不幸な目で見られている。家族は何とか彼を助けたいと思ったでしょう、何とか彼を救いたいと思ったでしょう、しかし家族の手にも負えない、家族もどうすることもできない、ただ墓場で叫び続け、石で自分を傷つけている彼を見守るしかできずに絶望の中にいたことでしょう。また家族は、なぜこんなことになってしまったのだろう、自分たちの何が悪かったのだろうと、自分たちを責め、苦しんでいたことでしょう。

2. 彼の人生を新しくし、家族を回復するイエス

現代には、家族の問題を抱える多くの人があります。私たちも例外ではありません。家族

の力ではどうすることもできない問題に、無力感と絶望感、そして罪責感を抱えて苦しんでいる多くの人がいるのです。

今日の聖書箇所が出来事を、彼の家族の視点から見ると、決して私たちとは無関係な出来事ではないように思えてきます。彼の家族も、自分の夫や父親、息子の問題で悩み苦しんだのです。そして、その中でイエス様に出会い、イエス様によって家族が回復させられていく経験をするのです。

悪霊につかれた男のもとに、突如イエス様が来られます。イエス様は彼に会うために、舟で湖を渡って来られたのです。そしてイエス様は、彼から悪霊を追い出し、彼を「**正気**」に返させます。イエス様は、彼と出会うために湖を舟で渡って来られました。

3. ひとりのために嵐の湖を渡られるイエス